

森永ミルクキャラメル、中箱にビンゴゲーム

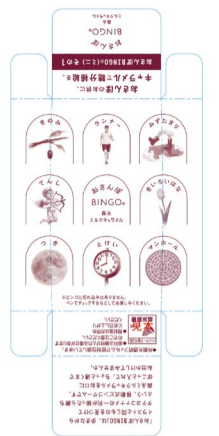
おさんぽBINGO®とコラボ

協賛会社の森永製菓（ベルマーク番号26）は、11月下旬までの期間限定で「森永ミルクキャラメル」（12粒、税込123円）の中箱にビンゴゲームを印刷して全国販売しています。キャラメルを食べながら散歩が楽しめる工夫を取り入れました。

中箱には縦横3×3のマスがあり、「ランナー」「つき」「みずたまり」などのイラストが描かれていて、ビンゴ

のカードとして使えます。歩きながら絵柄と同じものを見つけたら、ペンなどでチェックを入れ、縦横斜めのいずれか一列そろると「勝ち」です。

広告制作会社のサン・アドが商品化した「おさんぽBINGO®」とのコラボ商品。絵柄の組み合わせは全部で6種類あります。中箱の側面に1点のベルマークが付いています。



2年連続全国1位的那覇市立小緑小に記念品

ショウワノートベルマークキャンペーン

協賛会社のショウワノート（ベルマーク番号53）が2020年に実施した第47回ベルマークキャンペーンで、全国1位に輝いた那覇市立小緑小学校（平敷兼栄校長、児童407人）に記念品が到着しました。同小は昨年も全国1位を受賞しており、2連覇達成となります。



例年、全国1位を受賞した学校にはショウワノートの関係者が訪問し、表彰式を実施します。しかし新型コロナウイルスの流行が依然として続いているため、昨年度同様、学校での表彰式開催は叶いませんでした。写真はその代わりとして、学校からショウワノートに送られてきたものです。

写真に写った先生方の前には、立派な額に入った表彰状と、数十冊もの事典や学習まんが、ジャポニカ学習帳が並べられ、1位受賞の偉大さが伝わってきます。



現在、ショウワノートは第48回ベルマークキャンペーンを実施中です。2021年1月1日から12月31日までの1年間に、同社のベルマークをどれだけ集められたかを競います。この期間に財団で検収を終えたマークが対象で、エントリーは必要なく、自動的に点数が積み

重ねられます。

表彰の対象は3000点以上集めた小学校です。全国1位の小学校と、全国を8つに分けた各ブロックの1位から3位の小学校に賞状と記念品が贈呈されます。4位以下でも、3000点以上集めていれば感謝状と学習帳をもらうことが出来ます。小学校以外の部では、全国1位の参加団体に賞状と記念品が贈られます。表彰校は、財団ホームページとベルマーク新聞で発表します。

ショウワノートのホームページからは、マークを貼る台紙をダウンロード出来ます。A4版1枚で100枚貼れるレインボーカラーの可愛い台紙です。



中部圏と北海道で7点の「専用バッグ」

キリンビバレッジが限定販売

協賛会社のキリンビバレッジ（ベルマーク番号54）は、中部圏と北海道で、キリンレモンや生茶、小岩井純水シリーズなど同社のベルマーク商品6本の専用バッグによるまとめ売りを行っています。

バッグには「7点」ベルマークが特別に付いており、商品の分とあわせて一挙に13点分のベルマークを得ることが出

来ます。

同社で富山・石川・福井・岐阜・静岡・愛知・三重の7県を担当する中部圏本部と、北海道での販売を担当する北海道キリンビバレッジが実施しています。専用バッグに付いているベルマークは約4.5割角の大判で、それぞれの地域の特産品などが描かれた楽しいデザイン

です。バッグはバイオマス素材で作られていて、「ベルマーク7点もらえる」とのコピーが応援メッセージと共に大書きされています。

どちらの地域も、専用バッグがなくなり次第、販売終了となりますのでご注意ください。

※一部取り扱いの無い店舗もあります。



ダイレックス&キリンビバレッジが11万点寄贈

昨秋のキャンペーンの成果を佐賀市立高木瀬小に

九州を中心に約300店舗のディスカウントストアをチェーン展開しているダイレックス（本社・佐賀市）と、協賛会社のキリンビバレッジは、昨秋に共同で実施したキャンペーンで集まったベルマーク11万1445点を6月24日、佐賀市立高木瀬小学校（松島正和校長）に贈呈しました。

贈呈式は午前8時20分から高木瀬小の体育館であり、児童を代表して6年生約120人が集まりました。他の学年には校内放送による全校朝礼で式があることが告げられました。

松島校長は開会の辞で「みんながとても頑張っていることを、見ていて下さる方がいるんだなあと、うれしい気持ちです」と話しました。続いてキリンビバレッジの福島恒晴・九州地区本部長が「この

ベルマークを、みなさんの願いがかなうような、すてきなものに変えてください。これからも積極的にベルマークを集めてほしいと思います」と述べました。

その後、ベルマークの目録がダイレックスの多田高志社長から松島校長に渡され、児童代表が「ありがとうございました」とお礼を述べました。多田社長は「学校生活が少しでも有意義になるような形でお手伝いできたのなら、こんなうれしいことはありません」とあいさつし、贈呈式を締めくくりました。

このキャンペーンは「家族の“おうち時間”応援」をうたい昨秋に実施、約7400通の応募がありました。式はオンラインで東京と繋がり、ベルマーク財団の小野高道常務理事がダイレックスへの感謝状をリモートで読み上げました。



④贈呈式には6年生が出席した ⑤お礼を述べる6年生代表 ⑥あいさつするダイレックスの多田社長